

学園紹介

校名

「常石ともに学園」

「ともに」は、イェナプラン教育校であること
を表す象徴的な言葉であり、「友」と「共」に
育つ、子どもたちと「伴」に学び続けるという意
味があります。学年を超えて子どもどうしが、こ
どもと先生が、小学校と地域が、ともに成長し
ていけるようにという願いを込めています。

校章



常石ともに学園の頭文字「と」の字
をモチーフに、人物像をデザインして
います。走る姿は活力と健康を表し、
赤色は太陽と明るい未来を表し、ハ
ート型は異なる年齢の子どもたちが同じ
教室で学ぶという相手への思いやり
の精神を表しています。

学校基本情報

(1) グループ別児童数

学年	低1	低2	低3	高1	高2	高3	特別支援 (自閉・情緒)	特別支援 (知的)	計
人数	24	25	23	24	24	24	16	9	169

(2) 職員

職名	氏名	主任等	担当	職名	氏名	主任等	担当
校長	甲斐 和子			教諭	越野 由希絵	特別支援教育Co	のびっこ
教頭	甲斐 真由子			教諭	田中 聡子		
教諭	藤井 奏介	教務主任	低学年	教諭	新良貴 史子		
教諭	竹廣 百香			教諭	藤田 紘江		
教諭	福永 恭子			養護教諭	萩原 桂子		
教諭	世良 祐也			事務主事	大崎 蓮太		
教諭	恵美 佑介	保健主事		介助員	藤原 純子		
教諭	藤田 智子			介助員	山本 晶子		
教諭	水野 拓海	研究主任	高学年	学校図書館補助員	片岡 美加		
講師	重松 みなみ			校務補助員	岡村 千恵		
教諭	箱崎 勇輝			教諭	小田原裕美子	育休	
教諭	松下 沙耶加			教諭	菊輪 舞	育休	
教諭	荒木 友康	生徒指導主事					
教諭	延谷 貴代						

アクセス

● 公共交通機関の場合：バス（鞆鉄道）



● 自家用車の場合



福山市立
常石ともに学園

所在地
TEL
E-mail

〒720-0313 広島県福山市沼隈町常石984番地1
084-987-1340 FAX 084-987-1340
shou-tsuneishi@manabi.city.fukuyama.hiroshima.jp



ホームページへは、
こちらから。

学校要覧

こどもたちは
だれもが世界にたった一人しかいない
かけがえのない価値を持った存在です

私たちは
こどもたちが集い 関わり合いながら
どのこも 学びが面白い!と感じる
どのこも 互いの価値を尊重し合える
どのこも 自分らしく成長できる
そんな 学校をめざし
こどもたちと ともに成長していきます



TSUNESHU
常石とともに学園 

<基本理念>

福山市の教育が描く未来は、変化の激しい社会の中で、「こどもたちが、自分の夢の実現に向かって、ローズマインド（思いやり・優しさ・助け合いの心）を胸に、福山で、日本で、世界で、たくましく生きている。そして、環境・貧困・人権・平和・開発等、現代社会の様々な問題を自らの問題として捉え、それらの課題解決のために様々な人々と協働して、持続可能な社会を創造している。」というものです。

日々の授業を中心とした全教育活動の中で、子どもたちの資質・能力を育み、日常の様々な場面で行動化できる確かな学びにしていきます。



本校がめざす こどもの姿

自立

学ぶ面白さを実感し 自ら考え学ぶ子

共生

持ち味を生かし合い 協働する子

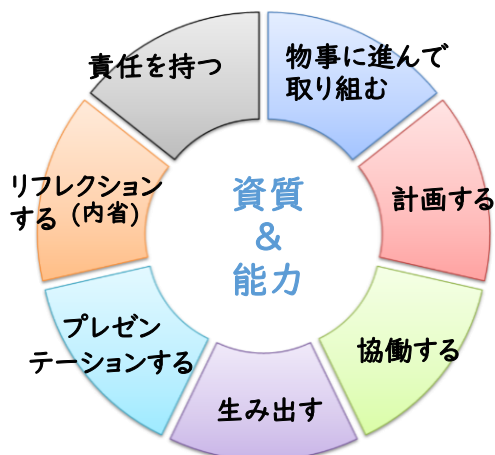
自己実現

自己を認識し 自分らしく成長する子

これらの実現を通して、こども一人ひとりの可能性を最大限伸ばしていきたいと考えています。

育成する資質・能力

めざすこどもの姿に向け、育成する資質・能力は、次の7つ。日々の教育活動全体を通して、これらの力を育む取組を行っていきます。



<精神> … 20の原則

- 1～5 めざす理想の人間像 6～10 理想の社会像
- 11～20 その実現に向けた学校像

人間について どの人も…

- 1 世界にたった一人しかいない。（かけがえのない価値）
- 2 自分らしく成長していく権利を持っている。
- 3 自分らしく成長するために、他者、自然や文化、様々なものとの関係を大切にしなければならない。
- 4 その人にしかない人格を持った人間として受け入れられ、尊重されなければならない。
- 5 文化の担い手、改革者として受け入れられ、尊重されなければならない。

社会について 私たちは…

- 6 それぞれの人がもっている、かけがえのない価値を尊重しあう社会をつくる。
- 7 それぞれの人のアイデンティティを伸ばす社会をつくる。
- 8 人と人との違いやそれぞれの人の成長や変化を受け入れる社会をつくる。
- 9 地球と世界を大事にし、よりよい社会をつくる。
- 10 自然や文化の恵みを、未来に生きる人たちのために、責任を持って使う社会をつくる。

学校について 学びの場は、では…

- 11 かかわっている全ての人にとって、独立かつ共同して作る組織。社会からの影響も受けると同時に、社会にも影響を与える。
- 12 働く大人たちは、1から10までの原則をこどもたちの学びの出発点として仕事をする。
- 13 教えられる教育内容は、実際の暮らしの世界、知識や感情を通して得た経験の世界、社会が持っている文化の恵みの中から引き出される。
- 14 教育活動は、教育学的によく考えられた道具や環境を用意して行う。
- 15 教育活動は、対話・遊び・仕事（学習）・催しの4つの基本的な活動を交互にリズムカルに行う。
- 16 こどもたちがお互いに学び合い・助け合いができるように、年齢や発達の違うこどもたちを組み合わせたグループをつくる。
- 17 一人でできる遊びや学習と、グループリーダーが指示・指導する学習を交互に行う。
- 18 学習の基本である、経験・発見・探究と、ワールドオリエンテーションが中心的な位置を占める。
- 19 こどもの行動や成績の評価は、成長の過程を見るという観点を大切に、こども自身と話し合いをする形で行う。
- 20 何かを変えたり、より良いものにしたりする活動を常に行うことが必要。そのためには、実際にやる、それについてよく考えることを、いつも交互に繰り返す態度が大切。

こどもたちにとってよりよい学びの環境をめざして

教室

- ◆ こどもたちにとって居心地のよい「リビングルーム」であるとともに、多様な学びの形態に柔軟に対応できる空間をめざしています。
- ◆ 先生とこどもたちが、いつでもサークル対話できる場所や、こどもたちがグループで作業したり、一人で学んだりしやすいように考えて設計しています。



さらに学びが面白くなるオープンスペース

- ◆ 校舎1階部分の空間は、こどもたちの多様な学びが展開できる空間としました。
- ◆ こどもたちが催しを行ったり、のんびり読書をしたり、語り合ったりする場所です。

常石ともに学園のやくそく



学びの特徴

異年齢集団でのグループ編成

- ◆ 1年生から3年生、4年生から6年生の3学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行います。
- ◆ 年長者が年少者を助けたり、教えたりということが、より日常的に行われるようになります。
- ◆ 個性や発達の程度の違いが当たり前のように受け入れられるようになります。
- ◆ 教科等の学習では、学年を超えた学びの展開が可能となります。



4つの基本活動に基づいた時間割

- ◆ 4つの基本活動である対話・遊び・仕事・催しをもとに教育活動を行います。
- ◆ 機械的に時間を区切るのではなく、こどもの状況に応じて、活動の時間を延ばしたり縮めたりしながら行います。
- ◆ リズミカルに活動が循環するよう、学校の日課を設定していきます。

1 対話（サークル対話）

- 個人を尊重する気持ちを育み、学級を信頼関係のある集団に育てていきます。
- サークル対話は円座になって行います。
- 朝と帰りの時間だけでなく、一日の中で必要に応じて行います。



2 遊び

- 「遊び」そのものが「学び」であり、考える力や協働する力を付けていきます。
- 一日の教育活動の中に「遊び」を入れていきます。
- 様々な場所で、こどもがやりたいことを自由に選択して遊ぶことができる環境づくりを行います。



3 仕事〈ブロックアワー〉

- こどもが学習計画を立て、自分で学び続ける力を付けていきます。
- こどもの状況に応じて学習を進めます。
- 自立学習やインストラクション（教師による指導）、学年の内容を超えた共通の問いについて考えることなどを、組み合わせて行います。

※〈ワールドオリエンテーション〉

- 生きた本物の題材から問いを見出し、探究し続ける力を付けていきます。
- 教科の内容を関連付けて学習していきます。
- 本物の問いと向き合い、異年齢集団で協働的に探究していくことで、教科・学年の枠を超えて学んでいきます。

4 催し

- こどもたちが学んだこと・成長したことなどを一緒に分かち合います。
- 運動会や学習発表会などの行事だけでなく、誕生日のお祝いをしたり、その週の学びを簡単なプレゼンテーションなどで発表したりします。
- 他の学年や保護者、地域の方と共有することもあります。

ある一日の日課表

	内容
8:15	読書
8:30	朝のサークル
8:45	ブロックアワー
9:30	ブロックアワー（音楽）
10:15	遊び（休憩）
10:40	ブロックアワー
11:25	ブロックアワー（体育）
12:10	給食
12:45	遊び（休憩）
13:10	そうじ
13:30	ワールドオリエンテーション
14:15	催しやサークル対話
15:00	下校

※〈ワールドオリエンテーション〉

こどもたちの身の回りには、知らないことが山ほどあり、様々な問いがあふれています。ワールドオリエンテーションは、こどもたちが好奇心をもとに問いを見出し、探究していく学びです。問いと向き合いながら、よりよい解を求めて探究し続けることで、こどもたちの学びは豊かになっていきます。

私たちは、問うこと・探究することを通して、ともに成長していきます。



運動場の土や砂を使って、混ぜてこねて、ピカピカの泥だんごを作り、コンテストを開催。遊びを通して場所による土や砂の違いや性質を探究しました。
(1～3年)



地域の休耕田を自分たちでデザインする「常石パーク」へ。植物の成長に必要なものは何かを考え、インスタ映えするひまわり畑に挑戦しました。
(4～6年)

春
夏
秋
冬

「道具道」身の回りにある道具には支点、力点、作用点があることを知り、文房具、調理・掃除道具等を使うことを通して、「力は支えることで作用する」ことを実感しました。
(1～3年)



「治の力」模擬選挙、議場見学、市議会議員さんとの対話、児童会長選挙、討論会等を通して、「私たちは私たちを私たちのために治めている」ことの意味を考えました。
(4～6年)

コア・クオリティ(大切にしている関係性)

自分自身との関係

- 1.1 自分の長所と短所を自覚し、向上のために努力する
- 1.2 学習と計画づくりに自分で責任をもつ
- 1.3 自分の進歩を評価する
- 1.4 自分の発達についてリフレクションして話し合う

世界との関係

- 3.1 生きた本物の状況の中で学ぶ
- 3.2 周囲の環境を大切にする
- 3.3 学習内容をワールドオリエンテーションの中で応用する
- 3.4 リズミカルに組まれた日課に沿って学ぶ
- 3.5 自分自身の関心や問いから主体的に取り組む

他の人との関係

- 2.1 異年齢グループの中で発達する
- 2.2 協働し、助け合い、振り返って考える
- 2.3 調和のある共同生活に責任をもつ

